

2022年5月9日  
株式会社 トーカイ  
(東証プライム:9729)

## トーカイグループ DX中期戦略を策定 ～全社DXで基盤をつくり、事業DXで価値を創る～

株式会社トーカイ（本社：岐阜県岐阜市、代表取締役社長：小野木孝二）は、グループ従業員一人ひとりの学びから、主体的にデジタルを活用できる企業へ生まれ変わることを目指し、DX中期戦略を策定いたしましたので、お知らせいたします。

### ■DX中期戦略を通じて実現する世界

コロナ禍で顕在化した業務や働き方の課題、持続的成長を志向するための事業戦略上の課題、そしてお客様や社会から求められる課題など、当社を取り巻く課題に目を向けたとき、その解決には「デジタルを活用した大きな変革」が不可欠となっています。

こうしたなかでトーカイグループは、

- ・全従業員がデジタルの学びを深めることができる場をつくること
- ・全従業員がデジタルを活用して変革に挑戦していく文化を創ること
- ・全従業員が情報を共有できるコミュニティをつくること

という3つの全社DX施策を核とした「DX中期戦略」を掲げ、グループ全体のデジタル戦略を推進し、全社のDXの基盤をつくっていきます。

この「全社DXによる基盤」が各事業それぞれのDX施策につながり、「各事業のDX施策」が人手不足や業務効率化に対処するEX※1の取り組み、お客様や社会に新しい価値を提供するCX※2の取り組みにつながり、トーカイグループとしての新しい価値を生み出していきます。

そして、その総体としてのトーカイグループのDXの取り組みが、

- ・2020年に制定した「3つの宣言※3」のビジョン実現
- ・2021年に公表した中期経営計画「Challenge for the new stage!」の実現

につながっていくと信じています。

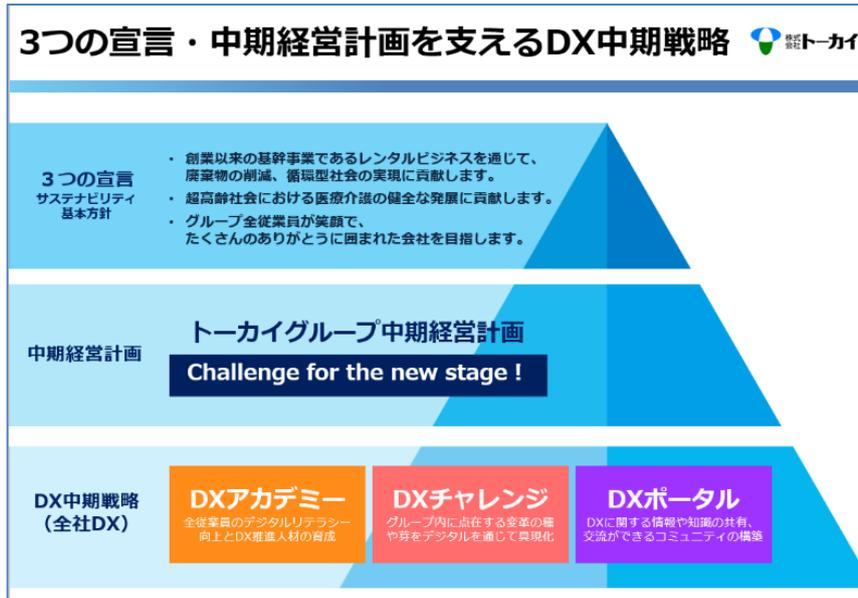
トーカイグループは、一人ひとりの学びから、皆が主体的にデジタルを活用できる企業へ生まれ変わります。その第一歩として、このDX中期戦略を発信します。

※1 EX：従業員体験（Employee Experience）。当社グループではEXを通じ「業務の価値変革」を目指します。

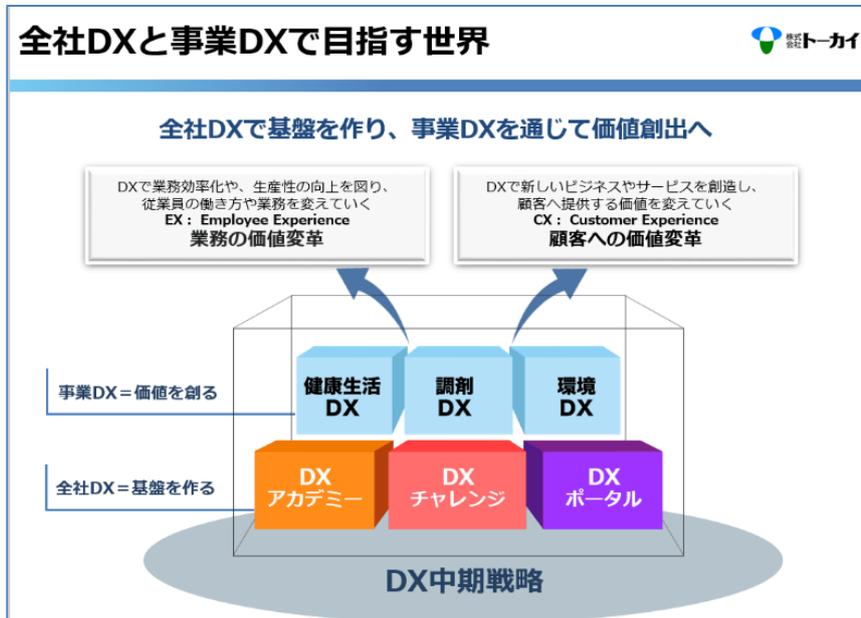
※2 CX：顧客体験（Customer Experience）。当社グループではCXを通じ「顧客への価値変革」を目指します。

※3 2022年5月にトーカイグループの「サステナビリティ基本方針」として改めて制定。詳しくは本日公表の適時開示資料「サステナビリティ基本方針の制定及びサステナビリティ委員会の設置に関するお知らせ」をご覧ください。

(本DX中期戦略の位置づけ)



(全社DXと事業DXで目指す世界)



## ■DX中期戦略で取り組む基盤づくりのための全社DX施策について

トーカイグループでは、全社でのDX推進を支えるための基盤として、以下の3つの全社DX施策に取り組んでまいります。

### (1) DXアカデミー：全従業員がデジタルの学びを深めることができる場をつくる

トーカイグループでは、誰もが学べるデジタルの学びの場をつくり、約10,000人に上る従業員のデジタルリテラシー向上に向けた環境整備を行います。この学びの場は、全従業員に対して開かれたものとし、いつでもどこでも何度でも学ぶことができる環境を通じ、広くデジタル人材の育成を図っていきます。

また、現場の業務課題や社会課題とデジタルをつなぐ人材「DX推進者」を育成するための社内教育プログラムを展開します。この「DX推進者」は各年60名、3年間で計180名の育成を目指します。このDX推進者を一人でも多く育成していくことが、今後のトーカイグループの競争力向上に寄与し、顧客や社会に向けた新しい価値を提供できるデジタル人材の育成につながると考えております。

これら2つの観点で学びの場を整える施策が「DXアカデミー」です。この取り組みを通じ、トーカイグループではデジタルの学びから新たな価値創造につなげられる人材を積極的に輩出していきます。

## **(2) DXチャレンジ：全従業員がデジタルを活用して変革に挑戦していく文化を創る**

トーカイグループでは、レンタルを中心としたさまざまな事業を展開するなかで、社会やお客様のニーズに応えるべく日々事業活動を行っております。変化の激しい環境下において、引き続きお客様目線での事業展開を続けていくうえでは、現場から上がる変革の種、各事業において取り組むべき変革の芽に、いち早く、そして効率的に取り組むことが不可欠といえます。

トーカイグループに点在する「変えていきたい」「変えなければいけない」変革の種や芽を拾い上げ、デジタルで具現化できるものを組織や会社横断で取り組んでいく施策が「DXチャレンジ」です。この取り組みを通じ、トーカイグループではデジタルを活用して変革に挑戦していく文化を醸成していきます。

進行中の各事業DX（添付資料P12以降）に加え、これから取り組むDXチャレンジは、

- ・一人ひとりの付加価値を上げる、生産性向上のための「人的作業の自動化」等の推進
- ・データ活用、データ分析等につながる「ツールの導入」
- ・既存事業で保有する「データの活用」（在庫管理、発注業務、需要予測、営業戦略等）

などがあります。ビジネスモデルが近い事業で共通する課題、全社共通の間接部門の課題など、グループ全体で取り組むことが効率的といえる課題について、全社DXの一つとしてその解決を目指します。

## **(3) DXポータル：全従業員が情報を共有できるコミュニティをつくる**

トーカイグループでは、事業や会社ごとに進むデジタルの取り組みの情報共有がこれまで十分ではなく、個々のデジタル施策等がグループ全体での効率化に寄与するところまでに至っていませんでした。

情報共有の巧拙やスピードが戦略の実効性を左右する現在、全従業員が「トーカイグループのDXのいま」を知り、学び、交流できるコミュニティをつくるのが非常に重要な取り組みといえます。

この従業員のナレッジや情報を集積する場としてのコミュニティをつくる施策が「DXポータル」です。この取り組みを通じ、トーカイグループではデジタルの今を広く共有できる仕組みを整備していきます。

トーカイグループは、各事業における成長戦略とともに、本DX中期戦略の策定によりデジタル、DXの取り組みを推進し、「中期経営計画の実現」「3つの宣言の実現」をグループ一丸となって目指していきます。

なお、本DX中期戦略の詳細については、添付資料をご確認ください。

<ご参考> トーカイグループ中期経営計画「Challenge for the new stage!」（2021年5月17日公表）

<https://www.tokai-corp.com/finance/management/plan/>

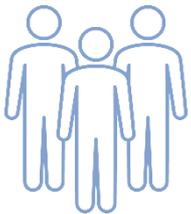
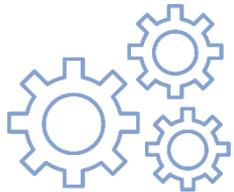
<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社トーカイ 経営企画本部 経営企画部 経営企画・IR課 ([TEL:058-263-5111](tel:058-263-5111))

以上



# トーカイグループ DX中期戦略



2022年5月9日  
株式会社トーカイ

## トーカイグループがDX中期戦略を通じて実現する世界



代表取締役社長

小野木 孝二

コロナ禍で顕在化した業務や働き方の課題、持続的成長を志向するための事業戦略上の課題、そしてお客様や社会から求められる課題など、当社を取り巻く課題に目を向けたとき、その解決には「デジタルを活用した大きな変革」が不可欠となっています。

こうしたなかでトーカイグループは、

- ・ 全従業員がデジタルの学びを深めることができる場をつくること
- ・ 全従業員がデジタルを活用して変革に挑戦していく文化を創ること
- ・ 全従業員が情報を共有できるコミュニティをつくること

という3つの全社DX施策を核とした「DX中期戦略」を掲げ、グループ全体のデジタル戦略を推進し、全社のDXの基盤をつくっていきます。

この「全社DXによる基盤」が各事業それぞれのDX施策につながり、「各事業のDX施策」が人手不足や業務効率化に対処するEX<sup>※1</sup>の取り組み、お客様や社会に新しい価値を提供するCX<sup>※2</sup>の取り組みにつながり、トーカイグループとしての新しい価値を生み出していきます。

そして、その総体としてのトーカイグループのDXの取り組みが、

- ・ 2020年に制定した「3つの宣言<sup>※3</sup>」のビジョン実現
- ・ 2021年に公表した中期経営計画「Challenge for the new stage!」の実現

につながっていくと信じています。

トーカイグループは、一人ひとりの学びから、皆が主体的にデジタルを活用できる企業へ生まれ変わります。その第一歩として、このDX中期戦略を発信します。

※1 EX：従業員体験（Employee Experience）。当社グループではEXを通じ「業務の価値変革」を目指します。

※2 CX：顧客体験（Customer Experience）。当社グループではCXを通じ「顧客への価値変革」を目指します。

※3 2022年5月にトーカイグループの「サステナビリティ基本方針」として改めて制定。宣言の内容は後述。

# 中期経営計画の中で掲げたDX

## トーカイグループ中期経営計画「Challenge for the new stage !」 2022年3月期～2025年3月期

### 続ける

社会の要請や  
お客様のニーズに応える

- 循環型社会に資する「レンタル事業モデル」
- 医療および介護の社会インフラを支えるサービスの安定供給
- 既存のコア事業の強化および地域シェアの向上
- お客様本位のサービス提供とさらなる専門性の追求
- 差別化の要となる「人的資本」の強化

### 変える

経営環境の変化に対応し、  
さらなる成長につなげる

- ニューノーマル時代における個人、組織の新しい働き方の整備
- **DXの推進による業務効率化および生産性向上**
- プライム市場にふさわしいコーポレートガバナンス
- 経営人材育成と若い世代の積極登用
- 多様性を重視した経営

### 創る

次世代につながる  
新たな価値を生み出す

- ヘルスケア分野における新たな事業やサービスの開発
- **DXの推進による新しいビジネスモデルの創出**
- グループの経営資源の有機的な結合による新たな事業価値の創出
- 成長に資する投資分野の発掘と機動的な投資実行
- 働きがいや誇りを持って働き続けることができる企業風土

(2021年5月公表 トーカイグループ中期経営計画より抜粋)

## 3つの宣言 サステナビリティ 基本方針

- ・ 創業以来の基幹事業であるレンタルビジネスを通じて、廃棄物の削減、循環型社会の実現に貢献します。
- ・ 超高齢社会における医療介護の健全な発展に貢献します。
- ・ グループ全従業員が笑顔で、たくさんのありがとうございますに囲まれた会社を目指します。

## 中期経営計画

### トーカーグループ中期経営計画

**Challenge for the new stage !**

## DX中期戦略 (全社DX)

### DXアカデミー

全従業員のデジタルリテラシー向上とDX推進人材の育成

### DXチャレンジ

グループ内に点在する変革の種や芽をデジタルを通じて具現化

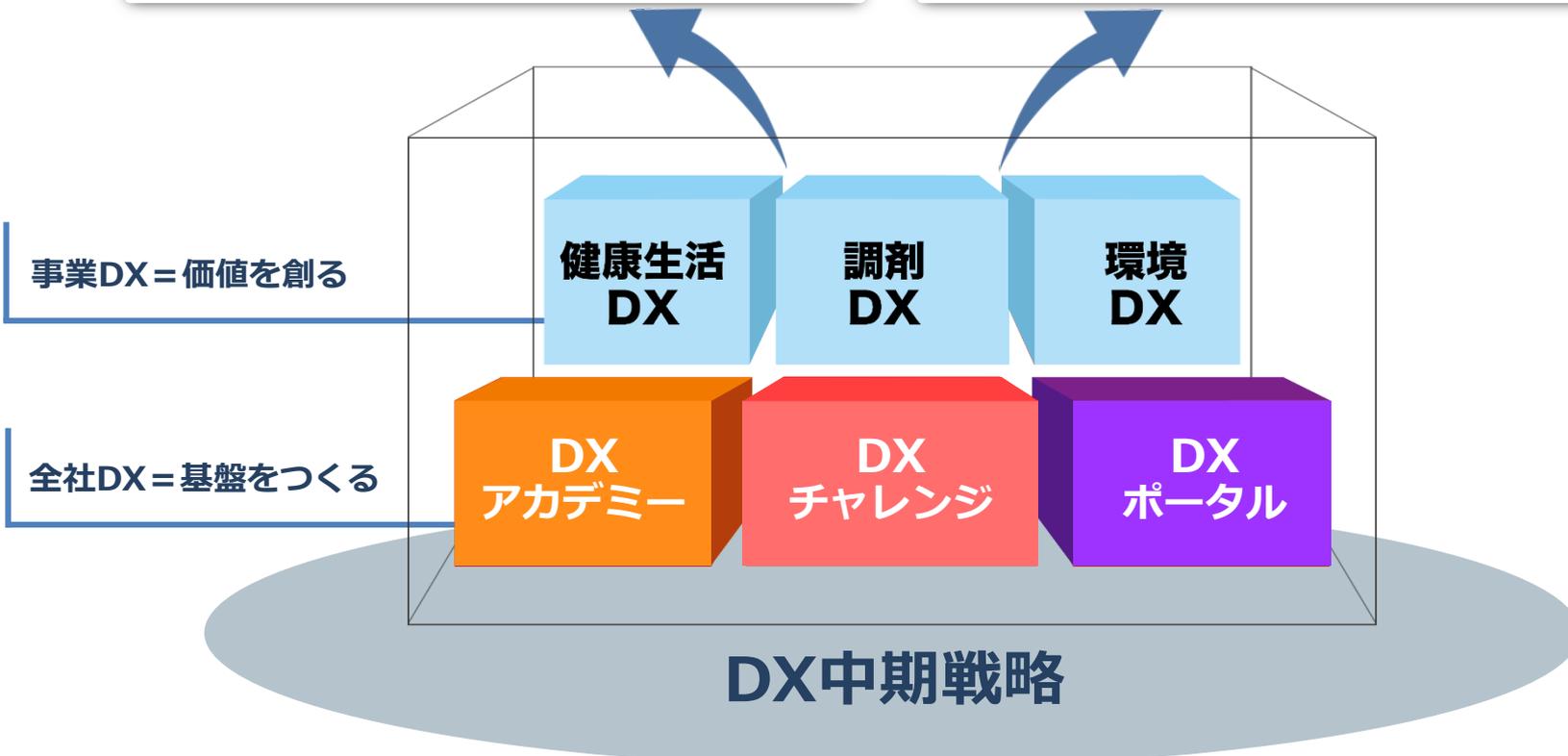
### DXポータル

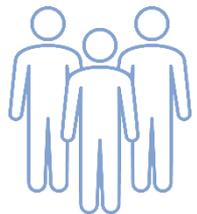
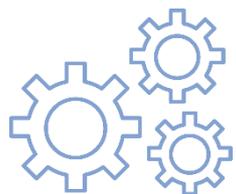
DXに関する情報や知識の共有、交流ができるコミュニティの構築

## 全社DXで基盤をつくり、事業DXを通じて価値創出へ

DXで業務効率化や生産性向上を図り、  
従業員の働き方や業務を変えていく  
EX : Employee Experience  
業務の価値変革

DXで新しいビジネスやサービスを創造し、  
顧客へ提供する価値を変えていく  
CX : Customer Experience  
顧客への価値変革





# 基盤をつくる全社DX

## DX アカデミー

全従業員がデジタルの学びを  
深めることができる場をつくる

### DX推進者

3年で180名を育成



DX  
アカデミー

### 全従業員



### 現場とデジタルをつなぐ人材育成プログラムの実施

- ・現場とデジタルをつなぐ人材（DX推進者）を戦略的に育成
- ・DX推進者が中心となって、各事業の業務課題や社会課題に向き合う

### 誰もが学べる、デジタルの「学び場」の整備

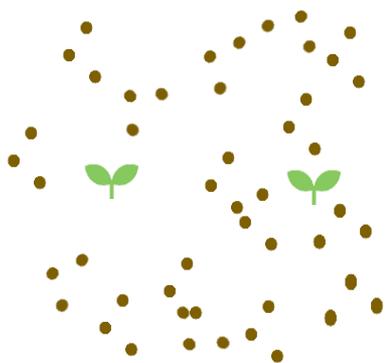
- ・全従業員にデジタルの学びの機会を提供、リスキリングを支援
- ・デジタル化の必要性を正しく理解し、自分ごととして捉える人材を育成

## DX チャレンジ

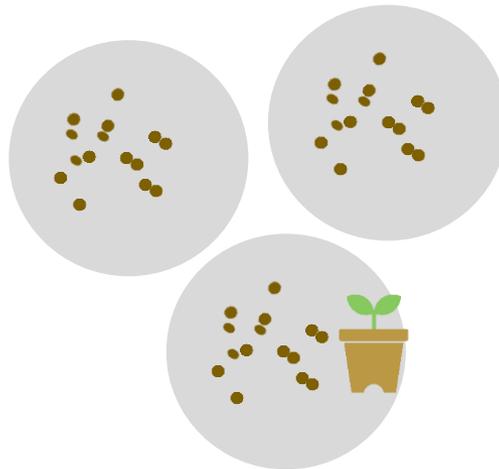
全従業員がデジタルを活用して  
変革に挑戦していく文化を創る

### 現状

「変えていきたい」  
「変えなければいけない」  
変革の種や芽が点在

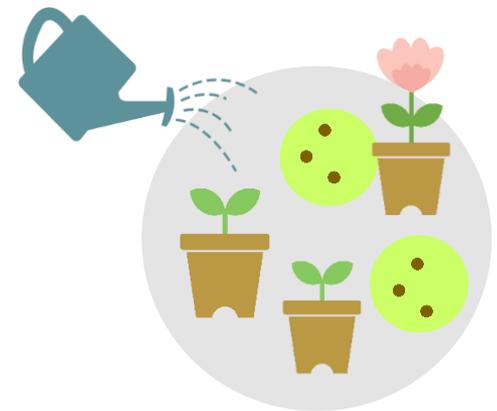


デジタルで具現化できる  
変革の種や芽を「横展開」が  
可能なものや「共通項」が  
あるものを整理して分類



### 目指す姿

事業や会社の枠を超えて  
変革にチャレンジし  
花を咲かせる



## DX ポータル

## 全従業員が情報を共有できるコミュニティをつくる

### 収集と学習

- 目的に応じた情報収集
- 課題や疑問の自己解決
- DXに関する自己学習



## 全従業員の コミュニティ

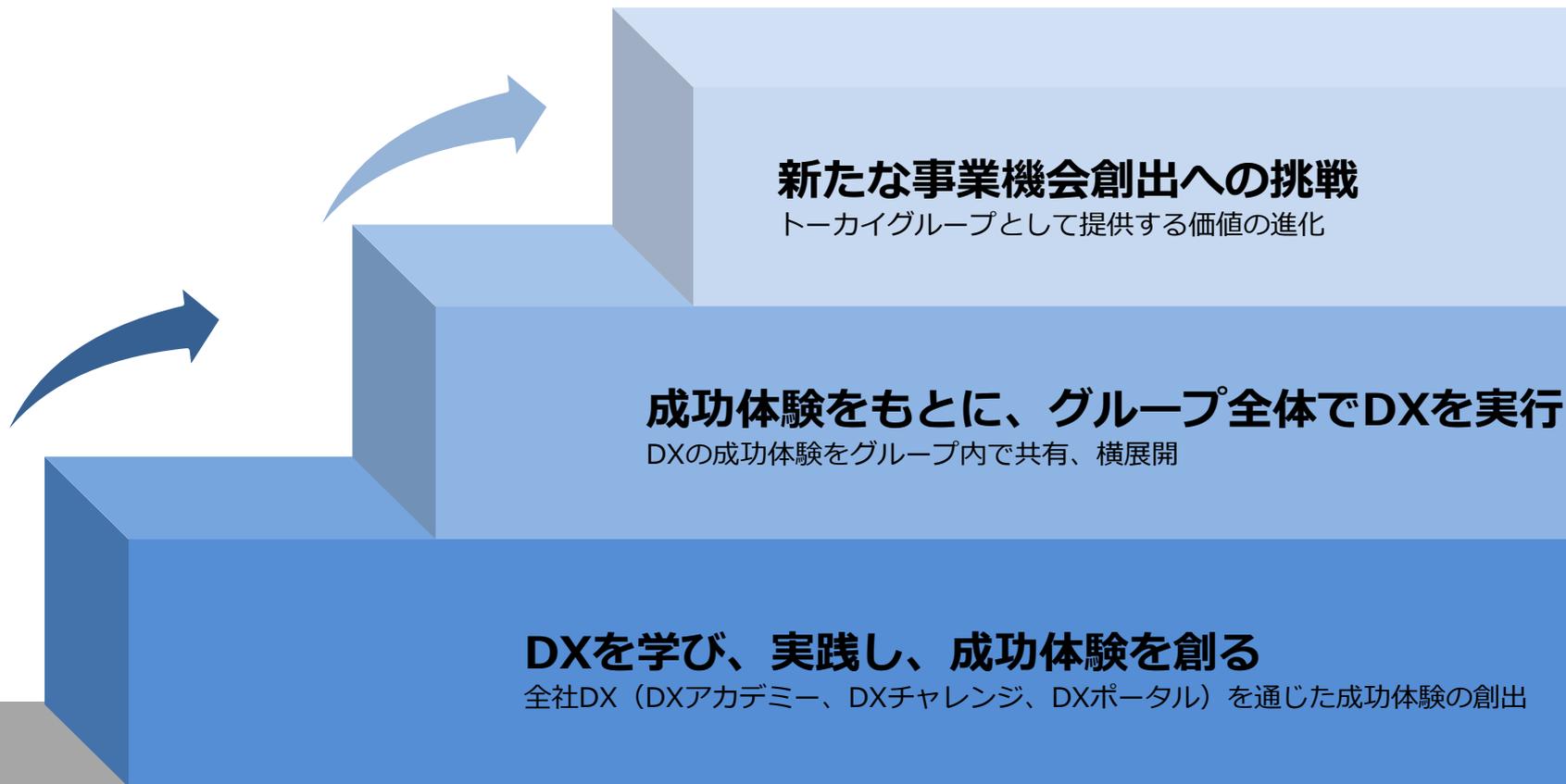
### 相談と交流

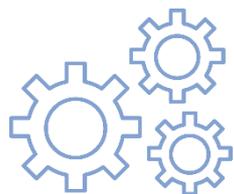
- DXの課題や疑問を相談
- DXの取り組みに関する情報交換など交流を図る

### 発信と蓄積

- 世の中のDX動向、社内のDX事例、デジタルツールの活用方法などを共有
- 共有した情報をコンテンツとして蓄積

一人ひとりの学びから、  
皆が主体的にデジタルを活用できる企業へ





# トーカイグループ DXのいま

# 2018年以降の主なデジタル投資

## デジタルを通じた業務の効率化や働き方改革への対応、 コロナ禍での円滑な業務遂行を支援するデジタル投資を積極的に実行

2018年

2021年

DX施策

グループウェア更改、モバイルデバイス活用支援

VDI導入・拡大、Web会議システムの導入および活用

ペーパーレス、承認業務のデジタル化

セキュリティ強化

新たなデジタルツールや、  
デバイス導入による利便性向上



- 業務上のコミュニケーションツールとして新たなグループウェアを導入
- 情報を即時に共有できる体制を整備し、生産性向上に寄与
- 業務の「品質」と「スピード」の両立を目指すモバイルデバイスの導入とアプリケーションの活用

テレワークへの対応やワークフロー化などによる  
業務効率向上や働き方の変革



- 拠点を問わず同じ環境で業務を行うことができる業務利便性を高めたデジタル基盤を構築（VDI環境整備）
- コロナ禍でのテレワーク要請に対応するためのデジタル投資（シンクライアントPCの導入等）
- Web会議システムを積極活用するとともに、円滑な会議実現のためのネットワーク環境等のインフラを広く整備



- ワークフローシステムを導入し、申請・承認業務をデジタル化することで、意思決定プロセス迅速化と業務効率化を実現
- ペーパーレスの推進
- 安全で円滑な企業活動のために必要な情報セキュリティ投資

詳細

## 利用者様やご家族がより快適な生活を送ることができる 福祉用具サービスの提供を実現



サービスの提供に係る各種手続きの電子化による処理の自動化・効率化



AIを活用したサービス計画書を作成し利用者様に合わせた福祉用具を提案



センサーで検知した情報をスマートフォンと連携できる福祉用具の提供

### 背景

- 利用者様やご家族のさまざまな要望に応えられる福祉用具を提案、提供したい
- 事務手続きの効率化を図ることで、これまで以上に利用者様への対応に注力し、快適な介護環境の整備に貢献したい



### 現在の取り組み状況

- 過去の蓄積データをもとにした、AIを活用したサービス計画書の作成
- センサーや通信機能を搭載した見守り機器の取り扱い拡充
- 情報の電子化により利用状況等が共有しやすくなり、利用者様やケアマネジャーへの対応が迅速化
- 電子署名による契約手続きの負担軽減、アプリの活用による事務処理の自動化

## リースキンチェーン全体の 業務効率化およびサービス力向上を図る



フランチャイズチェーンおよびサプライヤーが  
利用できるシステムを構築し各業務を効率化



リースキンオリジナルアプリで  
「トイレ周り日本一」に向けた営業活動を推進

### 背景

- リースキンチェーン全体で、お客様の困りごとを解決したい
- 営業活動を支援できるツールを加盟店に提供したい
- 情報の一元管理や共有を通じた業務効率化を図りたい



### 現在の取り組み状況

- フランチャイズ本部、加盟店およびサプライヤーの購買情報を一元管理し、各社の業務負荷の軽減に寄与
- データ集約による利便性の向上
- トイレ診断にもとづく提案書および見積書をその場で作成できるリースキンアプリを活用し、お客様へのサービス提案を迅速化

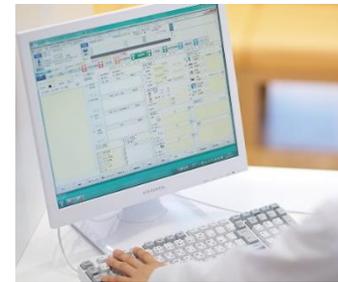
## 患者様の健康増進に寄与する新たな価値を創造する



アプリを活用した  
患者様サポート  
(健康管理・増進/服用管理)



調剤過誤防止システムの  
全店設置と調剤ロボット  
で実現する安全な調剤



情報の一元管理により安全  
で質の高い服薬指導を実施



オンライン服薬指導・  
オンライン資格確認  
システムの全店導入

### 背景

- かかりつけ薬局・薬剤師として地域医療に貢献したい
- 多様な調剤、服薬指導ニーズに沿ったサービスを提供したい
- 働き手不足の中でも、患者様一人ひとりに向き合った服薬指導を実施したい



### 現在の取り組み状況

- 処方箋送信アプリ、電子お薬手帳、服薬状況をモニタリングできる通信タグの活用
- 調剤過誤防止システムや調剤ロボットを活用し、インシデントを防止することで、安全な調剤を実現
- 一元管理された情報を元に服用中の医薬品との重複投与防止やアレルギーも含めた相互作用チェックにより安全な服薬指導を実施
- オンラインを活用した服薬指導や服用歴確認により患者様の安全性と利便性を向上

## 各工場における 可視化 × 省力化 × 省エネ化 を推進



通信タグ等を用いて  
商品・資材管理をデジタル化



多言語対応のノーコードアプリ  
を活用し、多様な人材に  
活躍してもらえる環境の整備



デジタル技術を活用した  
高効率な工場設計



リアルタイムで生産状況・  
ユーティリティを管理

### 背景

- 商品に不具合が発生した場合でも、早期に対応することで、高品質な商品をお客様へ安定的に提供したい
- 多様な人材が活躍できる環境を整備したい
- 働き手が不足するなかで、工場の省力化を進めたい
- 環境負荷低減に取り組むためユーティリティを管理し、エネルギー効率を改善したい



### 現在の取り組み状況

- トレーサビリティシステムの導入により、不具合のあった商品と同期間に生産された商品を確認することで、影響範囲を特定し、お客様への早期対応が可能に
- 言語切り替えが可能なノーコードアプリを活用し、多言語に対応した生産管理のシステムを開発
- デジタル技術を活用し、既存工場や新工場の省力化を図る
- リアルタイムで生産状況およびユーティリティを管理し、継続的な改善を図る

## 環境にも従業員にも優しい安全運行管理体制を実現



運転日報作成の  
デジタル化



危険挙動の可視化による  
運転特性にもとづいた  
安全運転指導



安全運転の徹底を通じた  
コンプライアンス強化



エコドライブの推進に  
よる環境問題への対応

### 背景

- 手書きによる運行日報の記入を自動化したい
- データにもとづいて「ふんわりアクセル（5秒で20km/h）※1」の浸透を図り、実行性を高めたい
- 個人の癖や運転特性にもとづいた運転指導をしたい
- 燃費情報の管理を手作業から脱却したい

※1 グループ全体で取り組む交通事故削減の施策

### 現在の取り組み状況

- テレマティクスサービス導入による運転日報のデジタル化
- アクセルワークのデータ取得による「ふんわりアクセル（5秒で20km/h）※1」実施状況の可視化
- 運転傾向の可視化による事故予防に向けた個別指導の実施
- 燃費情報のデジタル化によりエコドライブ推進の啓蒙にシフトチェンジ

